

リーダーが フォロワー（消極的な指示待ち人間）を再生産する。リーダー不要論を背景に登場した「インターミディエーター」。さまざまな次元で異なる領域や言語を媒介し、人間・機械・自然との相互作用から、新たな需要、関係変化、先端表現を創りだす存在です。九段会館テラスにて、第 10 回フォーラムを開催します。

2026. 11. 15 [日]

「媒介」は善い行為でも特殊能力でもなく、人間が世界に存在することで不可避免的に生じる。媒介者とは、単に仲介業者や代理人（弁護士・会計士）のような職業、職能、役割のことではなく、人間の条件です。……………

Intermediator Forum 2026

Welcome to Intermediator Forum 2026

生存可能で、住むに値する世界へ

A. 精神の価値

現代人は、ふたつの M に注意が向いている。Money と Muscle である。これを述べると、生命を守るためと応じた者がいた。

Money と Muscle は、いずれも生命を維持・防衛する力になりうる。しかし、そこに「精神」がなければ、何のために生命を守るのか、何を生命として守るのか、どこまでを守るのかという方向づけが失われる。生命を守るための手段そのものが、生命を損なう方向にも作用する。

ここでいう精神とは何か。Music である。個人の水準では、知性・認識・判断／意志・自己規律・人格形成／気概・勇気・活力として響く。社会・文化・歴史の水準では、思想や価値観／文化的気風／時代精神として響く。その Music が聴こえなくなるとき、精神はしぼんでいる。

B. 生命と文明の行方

ここに二冊の本がある。斎藤幸平著『人新世の「黙示録」』は「人間の活動が地球を破壊する」と論じる。ここで着目するのは、その処方ではなく、そこに示された問題の所在である。一方、Eliezer Yudkowsky & Nate Soares 著『If Anyone Builds It, Everyone Dies』は「超知能人工知能が人類を滅亡させる」と述べる。

両著の主張を合成すると、以下のような破滅の構図が浮上する。

超知能人工知能 → 人類 → 地球

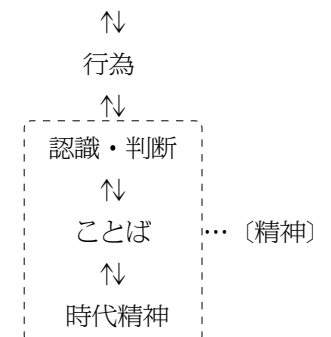
人類、とくに現在の経済・生産様式が地球環境を危機に導き、超知能人工知能が人類を滅ぼす。ここで中間項にあるのは人類である。あいだが変われば、両側も変わる。問われているのは、人類がこのまま進むのか、進路を変えるのかという判断である。

判断は行為に作用する。そして認識と判断を含む精神は、ことばを通じて形づくられ、方向づけられる。

人間は、ことばによって世界を認識し、意味づけ、判断する。ことばは、人々の意志や人格、気概や活力に作用するとともに、思想や価値観、文化的気風を形成し、継承し、変容させる。

判断と行為を変えることは、既存の進路を変更し、新たな可能態世界を現実化することでもある。それを Innovation と呼ぶ。↘

超知能 AI ⇄ 人類 ⇄ 地球



Welcome to Intermediator Forum 2026

C. Innovation as Worldmaking

Intermediator は、Innovation の担い手である。異なる複数の点を認識し、境界や断絶をこえて双方・多方を結ぶ。

この相互接続機能は、分散と分断が併存する現代世界にあって、競合的共存（Agonism）を支えるとともに、協調的行動や協働創造の場を拓く。

それだけではない。それらの接触が新結合となる時、Innovation が生まれる。Innovation は、既成の関係や意味、制度や技術の組み合わせを変え、世界のあり方を変える。歴史の境界線を越え、人々に新たな経験をもたらす。その変化は、ときに漸進的であり、ときに大きな転換となる。

世界は、**Intermediator** が活動する場であると同時に、制作と再編成の対象でもある。人、組織、知、制度、技術、世界を接続し、新たな結合を生み出す。そのことによって生存可能で、住むに値する世界を制作し、再編成する行為および過程、それが Worldmaking である。

ことばは、精神をかたちづくる。精神は、判断や行為として、また思想や価値観、時代精神として世界に現れる。そして **Intermediator** は、人として、物として、運動として現れ、世界を分節し、結節し、既成の世界に差異を、新しさを生み出す。Leader-Follower の枠組みからは見えないが、つつましく、劇的に機能する。

第10回フォーラムへ、ようこそ。

ことの大小を問わず、挑戦する方々のご参加を、お待ちしております。

設 楽 剛 (Go Shidara, Ph.D.)

設楽剛事務所 代表, 慶應義塾大学 博士 [政策・メディア]

Program 2026. 11. 15

13:15 開場

13:25 オープニング

13:30 - 14:10 I. Introduction

「インターミディエーター」とは

— 5つのマインドセットを中心に —

■ 鈴木 悠平 (作家・株式会社 間 代表取締役)

■ 上杉 公志 (作曲家・編集者)

■ Solo Work: マインドセットの自己評価

■ Group Dialogue

進行:  intermediary[®]
Certified

14:20 - 15:55 II. Innovation

Worldmaking Exercise: S, M, L, XL

■ Background 人間と人工知能の将来

■ Theme “Innovation” とは

■ Exercise Small World の検討と実作
—— 仕事の場を舞台に ——

■ Group Dialogue グループごとの発表

■ Polyphony まとめ (多声的に)

16:00 - 16:40 III. VisionTalk

人間像としての「媒介者」

— 人間は媒介せずには存在できない —

■ 設楽 剛 (フィロソファー)

17:00 - 18:00 Symposion (対話と懇親の場)